

## 西洋建築史第3回

### 古代2ー古典の継承と消失

中島 智章

#### 序.黄昏のローマ世界

##### ●Pax Romanaの終焉

マルクス・アウレリウス帝の息子<sup>コモドゥス</sup>Commodusの暴政と193年の内乱  
セウエルス朝(<sup>セプティミウス・セウエルス</sup>Septimius Severus, <sup>カラカッラ</sup>Caracalla, <sup>ゲタ</sup>Geta, <sup>エラガバルス</sup>Elagabalus, <sup>アレクサンデル・セウエルス</sup>Alexander Severus) 193-235

\*セプティミウス・セウエルス凱旋門:コリント式のデタッチド・コラム  
<sup>カルダリウム</sup>カルダリウム <sup>テピダリウム</sup>テピダリウム <sup>フリギダリウム</sup>フリギダリウム  
カラカラ帝の大浴場(Caldarium, Tepidarium, Frigidariumなどから成る)

##### ●軍人皇帝時代

「世界の再建者」<sup>アウレリアヌス</sup>Aurelianus・・・カエサルによる城壁撤去から300年、再び城壁を建設

##### ●末期帝政時代: Dominatus(専制君主政)の時代 284～

<sup>ディオクレティアヌス</sup>Diocletianusの帝国四分統治(293)・・・東西に正帝副帝  
<sup>コンスタンティヌス</sup>Constantinusの帝国再統一&遷都(330)

<sup>テオドシウス</sup>Theodosius、帝国二分(395)→西ローマ帝国(～476)と東ローマ帝国(～1453)

\*マクセンティウス帝のバシリカ:大規模な内部空間の実現  
コンスタンティヌス凱旋門:セプティミウス・セウエルス凱旋門と同じデザイン

#### 1.初期キリスト教建築

##### ●コンスタンティヌス帝のいわゆるミラノ勅令(313)

→帝国統一(324)  
→同帝洗礼(337)  
→テオドシウス帝のキリスト教国教化=異教禁止令(391)

##### ●「聖座」=「使徒座」の勃興(←聖ペテロの後継者たち)

→「皇帝のローマ」から「教皇のローマ」へ

<sup>ビュザンティウム</sup>Byzantium遷都(330)

ニケーア公会議(325)→アリウス派を退けアタナシウス派の教説が採られる→三位一体説(父と子と聖霊)へ  
聖ヒエロニムス(『ウルガータ訳聖書』)、聖アンブロシウス(ミラノ司教)、聖アウグスティヌス(『告白録』、『神の国』)→413-426)

##### ●コンスタンティヌス帝による聖堂建設

聖ペトルス(ペテロ)大聖堂(現存せず)  
→五廊式のバシリカ式教会堂、Atrium、Narthex、高窓  
バシリカ・サルウァトーリス(救世主大聖堂)  
→当初は使徒座聖堂で、その後、サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラーノ大聖堂と改称される  
→現在でもローマ司教座聖堂  
サン・パオロ・フオーリ・レ・ムーラ大聖堂

##### ●サン・ロレンツォ・マッジョーレ聖堂(ミラノ)

→四方にアプスがある独特の集中式平面、付属礼拝堂に創建当初のモザイク  
サンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂(ローマ)  
→三廊式、身廊+側廊×2、アプス、イオニア式列柱、小屋組→ローマの四大聖堂

## 2.古代ローマ建築のコンヴァージョン

- サンクタ・マリア・アド・マルティーレス教会堂(ローマ)
  - ←パンテオン(ローマ)が7世紀に教会へ転用されている→古代神殿の教会への転用例は多い
  - \*アントニヌス・ピウスとファウスティーナの神殿→サン・ロレンツォ・イン・ミランダ(1602)
- サンタンジェロ(ローマ)
  - ←ハドリアヌス廟の頂上に礼拝堂(聖グレゴリウス←大天使ミカエルが剣を鞘に収める幻を視た)
- 廃墟のローマ
  - すでにハドリアヌス帝治下に帝都の人口は半減→アウレリアヌスの城壁 コンスタンティウス \*Constantius IIのローマ訪問(357)

## 3.ラヴェンナの建築

- 西ローマ皇帝ホノリウスによるミラノからラヴェンナへの遷都(404)
  - 西ゴート族のアラリクス王によるローマ掠奪(410)
- 後継皇帝ヴァレンティニアヌス3世と母后ガッラ・プラキディア治下の建設活動
  - サン・ジョヴァンニ・エヴァンジェリスタ教会堂
  - ガッラ・プラキディア霊廟
- 傭兵隊長オドアケルによるロムルス・アウグストゥルス帝廃位(476)
- 東ローマ皇帝ゼノンの後援を得た東ゴート族のテオドリクス王によるオドアケル討滅
  - 「イタリア王」としてイタリア半島を支配(東ゴート王国の成立)
  - サンタポリナーレ・イン・クラッセ大聖堂
  - サンタポリナーレ・ヌオーヴォ大聖堂
  - アリウス派洗礼堂とアタナシウス派洗礼堂
  - テオドリクス王廟

## 4.ビザンツ建築

- 千年の都Constantinopolisコンスタンティノポリス・・・「異教の都」ローマに対して「キリスト教の都」を指向
  - かつての「ローマ帝国」復興を達成したJustinianusユスティニアヌス大帝(527-565)だが・・・→その後、徐々に東方の一地方勢力に・・・
  - ローマ司教のカトリック教会との対立(451～)・・・聖像禁止令(726)、相互破門(1054)
- ユスティニアヌス大帝による聖堂建設
  - ハギア・ソフィア大聖堂
  - 煉瓦造、クーポラ(ドーム)架構+pendentive→古代建築最後の輝き
  - サン・ヴィターレ大聖堂(ラヴェンナ)
  - 大理石、斑紋岩、金色のクーポラ、モザイク、籠彫の柱頭、八角形
  - \*集中式(ドーム・バシリカ、クロス・ドーム)
- ビザンツ帝国の「中世建築」
  - 8世紀以降、貴族層の個人的礼拝のための教会堂が中心に \*クロス・イン・スクエア
- 西方ヨーロッパへの影響
  - カロルス大帝カール (Karl大帝、Charlemagne)のアーヘン宮廷礼拝堂
  - 東方的な集中式教会堂(中央に八角形クーポラ)
  - ヴェネツィア総督宮殿付サン・マルコ礼拝堂(現司教座聖堂)
  - クーポラ架構と金を基調としたモザイク装飾、ギリシア十字形